琉球大学学術リポジトリ

「読解力」と「記述力」をはぐくむ物語の読みの実践事例 ～「わたしはおねえさん(2年)」の実践から～

メタデータ	言語:
	出版者: 琉球大学教育学部附属教育実践総合センター
	公開日: 2012-12-21
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 玉城, きみ子, 上原, 千秋, Tamaki, Kimiko, Uehara, Tiaki
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/25516

「読解力」と「記述力」をはぐくむ物語の読みの実践事例
～「わたしはおねえさん（２年）」の実践から～

玉城　きみ子*　　上原　千秋**

A Practical Case Study on Reading Stories to Foster Reading Comprehension and Descriptive Ability : A Practice of using "I am an elder Sister"(A text book for 2nd grade students).

Kimiko Tamaki　Tiaki Uehara

１　はじめに

小学校においては、平成23年度より新学習指導要領が完全実施となった。

各教科の年間指導計画に言語活動が位置付けられ、国語科のみならず各教科の実践では、思考力・判断力・表現力の育成に向けた「書く活動」を中心にした授業づくりが日常的に行われるようになった。

国語科で培った能力を基本に観察・実験やレポートなどにおいて、視点を明確にして予想、結果、考察、まとめ、感想等を書く活動が位置付けられている。

このような「書くこと」によって育つ能力は、基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等に加え、書く意欲、書く力、言語力、我慢強さ等があげられる。それは、とりもなおさず学んだことを活用する力に繋がるものである。

とりわけ言語能力育成の中核を担う国語科においては、論理的に思考し表現する能力などをはぐくみ、生活や学習に必要な能力を身につけさせるため、記録、要約、説明、論述といった言語活動を充実させることが求められている。

国語科においては、これまで以上に国語科で培った言語能力を他教科で活用できるように授業構成や進め方を改善していくことが喫緊の課題だと言える。

ところで要因はいろいろあると思うが、全国学力調査や沖縄県内の到達度テストのＢ問題の結果において、本県の子どもたちの思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式の問題に課題があることが明らかになっている。これらの力は、社会において必要とされる力であることから、大きな課題として受け止めなければならない。

現在、県全体をあげて、読解力、記述力をはじめ活用する力をはぐくむ授業改善が求められている。

このような中でこれまでの国語科の授業を振り返って見た時に、基礎的・基本的な知識・技能の習得には、ある程度力を入れてきたが、これらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力をはぐくむことについての学習は十分であったとは言えない。

また、これまでの国語科の中で、学んだ事が子どもの実生活にどのように活かされているのか、国語科で育てた力が他教科にどう活かされているかを検証すること等をあまり行ってこな

*　琉球大学教育学部
**　琉球大学教育学部附属小学校

かった。

「国語を学ぶ」ということが、「日々の子どもの言語生活や学習活動を豊かにすることだ」と捉え直してみると、活用する力をはぐくむことの重要性が浮き彫りになってくる。それだけに「活用する力」をはぐくむということを意識した授業改善をしていく必要がある。

今回は、低学年の物語の読みに視点をあて、「読解力」と「記述力」をはぐくみ、実生活に生きてはたらく読みの力を付けるための実践研究を行っていきたい。

2 研究の目的と方法

(1) 研究の目的

「書く活動」を基軸とした学習過程の工夫で「読解力」と「記述力」の向上を図る。

今回の取り組みにおいては、低学年から「読解力」と「記述力」をはぐくむための学習過程を工夫し、特に「書く活動」を基軸とした学習指導の展開を図りたい。そうすることで思考力・判断力・表現力の育成はもとより主体的な読み手を育てていきたいと考える。

全学習過程に読んでは書き、書いては読むの学習を位置付け、読み書きを関連させることで一人学びや学び合いを充実させる。また、一連の学習で学んだことをマイノートに書き、それを活用したり、読みで学んだりしたことを書くことに繋げる。それは、実生活に生きてはたらく読みの力になると考える。

(2) 研究の方法：

「読解力」「記述力」の向上を単元全体の中での子どもの学びの姿から検証していくこととそれを支えた教師の教材研究の方法やその中で生まれた「教材研究のあしあと」を提示したい

①「書く活動」を基軸にした学習過程の工夫について：一人学びの手引き、学習計画表、課題づくり、課題の焦点化、学び合いの仕方等を学習過程の中に位置付け実践する。

②全文視写や書き込みが読解指導にどう活かされたか：子どもの書き込みのノートや授業実践記録等で検証していく。「読みのテストの結果」を分析していく。

③「わたしはおねえさん」を学んだ後の「感想文」や「２年生になって」の作文から子どもの読解力や記述力の変容を検証する。

④実生活に生きてはたらく読みに繋げるための取り組み：日常の様々な取り組みの紹介や国語科と教科関連で行っている指導計画等を提示し、子どもの変容の姿で読解力や記述力の向上を検証する。

⑤実践を支える教材研究の方法やその中で生まれた「教材研究のあしあと」を提示し、考察していく。

3 単元について

本教材の主人公の「すみれちゃん」は、子どもたちと同じ２年生、まさに等身大である。それだけに「すみれちゃん」に親近感を持ち、主人公に共感したり自分にひきよせたりして自分と比べて読み取ることができる教材である。

「すみれちゃんとわたしをくらべて読もう」という学習目標を立て、登場人物の心情や情景描写を叙述に即して想像できるようにしていきたい。

そのために、一人学びで全文視写を行い、自分のつぶやきや思いなどを自問自答しながら書き込みをさせ、課題づくりに繋げていく。

それぞれの課題を焦点化する中で読みを深め、共通課題を基にゴールまでの学習計画を教師と一緒に作成していくことで見通しと目的を持った読みの学習にしていきたい。また、読み深める際も叙述に即して登場人物に自分を重ね合わせたり、自分だったらどうするだろうという考えをペアートークやグループ学習の中で話し合い、自分なりの考えをまとめていく。

それを全体の話し合いの中で交流し読みを広げたり深めたりしていきたい。そこでは、仲間の読み取りの良さを感じたり、文章に共感したりして思考力や判断力をはぐくむことができると考える。

本単元では、登場人物と自分を比較し、これまでの経験や思いを活かした感想文や作文を書

く活動に繋げる学習を計画する。一人学びに始まって全員で読み深めたことや学んだことが記されているマイノートを活用して感想文を書いたり「２年生になって」の自らの成長に目を向けた作文を書いたりと書くことが基軸になる。

書こうとすることに必要な事柄を集めたり、本教材で学んだことと重ね合わせたりして筋道を立てて考え表現することに繋げていきたい。

さらに実生活に生きてはたらく読みのひとつとして、作品と自らの生活を結びつけ、自分より幼いもの、弱い立場にある者を理解し、慈しむ心をはぐくむ取り組みを大切にしたい。

すみれちゃんの歌にある繰り返しの言葉や擬態語、コスモスを大切に育てているすみれちゃんの姿や情景描写にも目を向けさせ、ひとつひとつの言葉を丁寧に扱っていきたい。

単元の最後には複数教材・関連図書・同じ作者や同じテーマの作品等のブックトークを行い、子どもたちが自分の選んだ物語を読み解釈し表現していく場を設定する。そうすることで子どもたちの日々の言語生活を豊かなものにしていきたいと考える。

4 学習の実際

(1)「書く活動」を基軸とした物語文教材の学習過程を創る

①「読解力」と「記述力」をはぐくむ学習過程のおおよその流れ

- 一人学び（教材との出会い・全文視写・書き込み・課題づくり）
  ↓
- 学習計画表の作成（課題の焦点化・共通課題を基に計画を立てる）
  ↓
- 学び合い：共通課題をもとに読み深める（ペアー・グループ・全体での交流活動）
  ↓
- 実生活で生きてはたらく読みに向けて（ブックトーク・2年生になっての作文）

② 実際の授業づくり：書くことを基軸にした学習過程の学習活動や主な指導内容

学習活動の●は「書く活動」、○は書く活動以外の活動　★指導内容と指導上の留意点等

学習過程		学習活動	指導内容および指導上の留意点
一人学び：学び方	教材との出会い	○範読を聞く ●初発の感想を書く ○繰り返し音読をする ●全文を視写する ●難語句を調べて書く ●漢字を書く ●書き込みを行う	【一人学びの充実】 ★一人学びの手引きを基に学習を進める：教材との出会いの中ですらすら読めるまで繰り返しの音読を位置付ける。 ★全文を視写、書き込みを行う：難語句や繰り返されている言葉、対比している言葉、不思議だなと思う所、心に残っている所などを中心に自分の読み取りを書き込みする。 ★一人学びの時間を十分に設定し再構成していく力を身に付けさせるために学び方をしっかり学ばせる
学習計画表の作成	共通課題を基に計画表作成	●課題づくり（不思議だと思う事、心に残った事を付箋紙に書く。） ○課題を出し合う。 ○簡単な課題はどんどん解決する。 ●課題を焦点化し共通課題をつくる ●学習計画表を子どもと共に作成しノートに書く。 ●授業を終えるごとに「振り返り」を書く	【読みの視点の明確化・課題の焦点化】 ★気づいたことや不思議だな、疑問に思ったことなどを基に各自が課題づくりを行い自問自答をする。 ★各自の出した課題ですぐに解決できるものは解決し、似たものは一つにまとめ、課題を焦点化する。 ★共通課題を基に学習計画表を作成する。この単元を学習するとどんな力がつくか、学習のゴールを子どもに示す。学習計画表は、自分たちの学習課題を基に作成し、自分たちの学びたいことを解決するための学習であることに気づかせる。そうすることで読みの視点が明確になり、主体的に読もうとする力を身に付けることができる。 ★学習計画表には毎時間終えるごとに「振り返り」を記入していく。

交流・学び合い	読み深める場	●共通課題の解決にむけ自分の考えをまとめる。 ○●読み取ったことを交流し自分の考えをさらに修正し膨らませていく。	【目的を持って読む】 ★共通課題を解決するという目的を持って読み深めていく。優れた描写や仕掛けにも目を向けさせ、叙述を根拠に自分の考えをまとめるようにする。 ★ペアートーク、グループ学習でそれぞれの考えを交流しその後、全体で交流することで読みを深めたり広げたりして自分の考えをまとめる。
実生活で生きて働く読み	感想や作文	●主人公と自分を比べながら感想文を書く。 ●「２年生になって」の作文を書く。	【活用する力を育む】 ★これまで学んだことや板書、感想等を書いたマイノートを活用し、仲間の表現の良さや教材文から学んだことなどをもとに自分と比較しながら読後感想文をまとめる。 ★「２年生になって」の作文を書く際のポイントをおさえ教材文で学んだことを活かしながら自分が成長したことを作文に書く。
	ブックトーク	○「兄弟・姉妹」をテーマにしたブックトークを行う。 ●自分で選択した本を読み感想をまとめる。	【本は友だち･･･学校図書館を活用】 ★教材文と同じテーマの作品等をブックトークすることにより読書意欲を喚起する。日々の生活の中で本が友だち的存在であるように言語環境づくりを行う。 ★ブックトーク後は、各自の選択した本を自由に読み、自分なりに感想をまとめる。このような活動の繰り返しの中で日々の児童の言語生活を豊かにする。

※　マイノートづくりの重視：学習のあしあと、感想文や作文を書くときに活用。（子ども）
　　マイノートづくり：読解力・記述力向上の検証、指導と評価の一体化を図る。（教師）

③　指導過程の工夫

一人学びの充実に向けての取り組みの実際

ア　一人学びの手引きの活用

低学年：ひとりべんきょうのてびき

（どうわ・ものがたり）

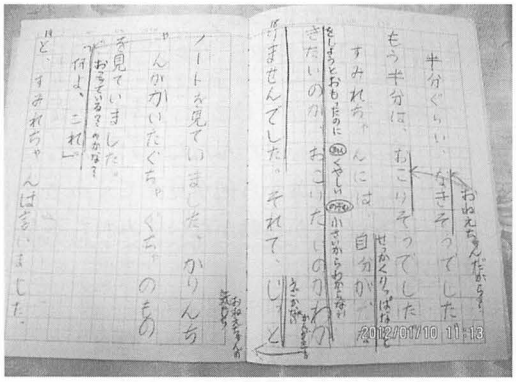
	ひとりべんきょう	サイン
1	一かい目のよみ：よめないかん字は、とばしてよみます。	
2	二かい目のよみ：よめないかん字にしるしをつけながらよみます。	
3	よめないかん字には、よみがなをつけます。（先生やともだちにたずねたり、じしょでしらべます）	
4	三かい目のよみ：よめるようになったかん字のよみがなをけしながらよみます。	
5	四かい目のよみ：はっきりしたこえでよみます。	
6	五かい目のよみ：すらすらよめるようにします。	
7	六かい目のよみ：いみのわからないことばにしるしをつけながらよみます。	
8	いみのわからないことばをノートにうつして、じしょでしらべたりおうちの人やともだち、せんせいにたずねたりします。	
9	あらすじをかいてみましょう。 はじめ：いつ、どこで、だれがどんなことをしたの つぎに：どうなったの それから：どうしたのかな さいご：どうなったのかな	
10	一字さがり、てんやまるにきをつけて右に一ぎょうあけて、本のとおりにかきうつします。	
11	かきうつしたものにかきこみをします。 ・きっとこんなきもちにちがいない。 ・このことばからこんなことがわかった ・おもしろいな、おかしいな、ふしぎだなとおもうことをかきこみします	
12	がくしゅうかだいをつくり、じぶんのかんがえをかきこみます。 ふしぎだな、よくわからないな、ともだちのかんがえをきいてみたいなとおもったことががくしゅうかだいになります。本をよんでがくしゅうかだいのこたえをみつけます。じぶんのかんがえをかきこんでおきましょう	

※ひとつおえるごとに、先生にサインをしてもらいましょう。
※ひとりべんきょうのしかたがよくわからないときは先生にそうだんしましょう。

イ　マイノートの作成：全文視写と書き込み

写真①　子ども手づくりのマイノート

写真②　全文視写と書き込み



写真①のように学級の子ども全員が「わたしはおねえさん」のマイノートを作成し、一人学びから最後のブックトークまでの学びの足跡をマイノートに記すようにした。

写真②：書き込みをしながら課題を作っていった。

写真③　初発の感想にも課題がでている

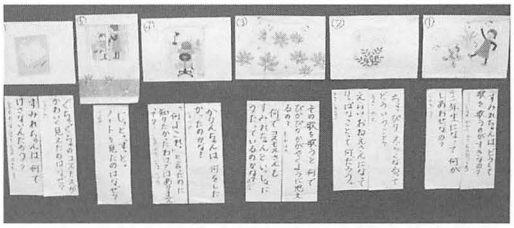
ウ　課題づくりと共通課題の絞り込み

写真④　子どもたちから出てきた課題

ピンクの付箋紙：心に残ったこと

黄色の付箋紙：疑問に思っていること

写真⑤　場面ごとにに課題の焦点化



子どもたちから出てきた様々な課題は場面ごとに焦点化していくようにした。その場で解決できるものは解決し、似ているものはまとめることで最終的には課題を４つに絞った。

一人べんきょうの手引きをもとに読みを繰り返し、全文視写、書き込み、あらすじまとめなどをしているので、子どもたちは教材文を読み深めるうえで重要な課題に気づくようになった

エ　読みの視点の明確化と学習の振り返り

写真⑥：共通課題をもとに子どもと一緒に学習計画表を作成し、「学習活動」「できたこと・わかった」ことを毎時記入していった。

（学習計画表と振り返り表）

(2) 読解力・記述力の検証１：全文視写や書き込みを読解指導に活かすための工夫

●課題を追究することで目的を持たせること

●自分の考えの根拠となる言葉をもとに、読み取ったことを発表し合う。

●ペアートーク・グループでの話し合い・全体の話し合いを行う。

共通課題：

①【根拠となる言葉への書き込み】

P55「自分が、なきたいのか、おこりたいのかわかりませんでした。」
書き込み：せっかくりっぱなことをしようとしたのに
・くやしい　　・いらいらしている。
・小さいから怒ってもしょうがない
・どうしていいのかわからない
P55「それで、じっと、ノートを見ていました」
書き込み：おこってノートを見ている。
・どうしてかりんはこんなことをしたのだろう
・動かない←考えている
・かりんちゃんが何を書いたのかお姉ちゃんの気持ちになっている。
P57「もういちど、ノートを見ました。」
書き込み：・お姉ちゃんになっている。
・ゆるしたのかな
・自分の小さい頃と比べてるかも
P57「じっと。ずっと」
書き込み：・すごくすごく考えている。
・じぶんだけじゃなく，かりんちゃんのことも考えてる。
・ゆるしている。・かわいく見えてきた
P58「『あはは。』すみれちゃんはわらいだしました。」
書き込み：・何で笑うの？
・おこっていたのがばかみたい
・かりんは私の真似をしているんだ。
・わたしはおねえちゃんだった。
・かりんちゃんもコスモスがすきなんだ。
P58「ふたりでたくさんわらってわらって」
書き込み：・かりんちゃんはなぜいっしょにわらったのかな
・怒ったことも楽しくなっている。
・ゆるしたんだね
P59「けしかけて、でもけすのをやめて、すみれちゃんは、つぎのページをひらきました」
書き込み：・大切な思い出にしよう
・かりんの成長だと思ったから
・けしたらもったいないよね
・かりんが大きくなったらみせてあげよう

② 学び合いの活性化にむけて

【授業実践から】11月23日（学び合い）

T：すみれちゃんは「じっと。」「ずっと。」もう一度ノートを見たんだね。「じっと。」「ずーと。」の言葉から何が見えてくる？
C１：「じっと」から動かないすみれちゃんが見えてきます。
C２：そうそう、それも長い時間
C３：「ずっと」とあるから長い時間
C１：すごくすごく考えていると思う。
C４：１回目の「じっと」では「お花、これがお花なの」と怒っていたけど、２回目の「じっと」は１回目と違うかも。
T：そうなの？２回目の「じっと」は１回目と違うの？
C４：ん～。１回目は怒ったり、泣きたかったりする気持ちがあったけど・・・
T：２回目は、すみれちゃんの気持が変わったのかな？
C５：うん、変わったよ。
C６、C７：私もそう思う。僕もそう思う。
T：すみれちゃんの気持を考えて、すみれちゃんの心のつぶやきを書いてみよう。
●子どもたちは、すみれちゃんのつぶやきをワークシートに記入する。自分の書き込んだことも参考にしながら記入する。
T：すみれちゃんのつぶやきが書けたかな。お隣の友だちの考えを聞いてみよう。
○【ペアートークスタート】

C７：「かりんのいたずらじゃない」って分かったんだよ。
C８：どうしてそう思ったの。
C７：あとから「あはは」って笑ってるし、ノートを消さなかったよ。
C９：「かりんはかわいいな」とつぶやいていると思う。
C10：「かりんをゆるしてあげよう」と思った。

授業の考察：（太文字は書き込みの活用）
１回目と２回目の同じ「じっと」の言葉に気持の変化があることに気づいたのは、書きこみの中で文との対話がしっかりなされているからだと思う。「じっと。」「ずっと」の言葉から時間の長さやすみれちゃんの様子までイメージしている。また、すみれちゃんの心のつぶやきをワークシートに記入し、ペアートークをしている時の話し合いにも書き込みが活かされている。教材文との対話が読解力を育んでいる。

【授業実践から】11月25日（学び合い）

Ｔ：すみれちゃんが消そうとしたのは、かりんちゃんの描いた何だったのかな。
Ｃ：お花
Ｃ：そうそう、家族で育てているコスモスだよ。
Ｔ：お花の絵だから消さなかったのかな。
Ｃ：そうだと思う。
Ｃ：え～。なんか違うよ。
Ｃ：少しあってるけど、でも・・・・・。
Ｔ：みんなはどう思う？なぜ、消さなかったのかな？もういちど書き込みのノートもみて考えてごらん。そして、ペアートークをしてみよう。
○【ペアートークスタート】
Ｃ１：だってさあ、昨日「あはは」って二人で笑っていたよ。仲直りしてたよ。
Ｃ２：仲直り？けんかはしていないよ。すみれちゃんが怒っていたんだよ。
Ｃ１：確かに１回目は怒っていた。でもかりんちゃんが「お花」って言ったからもう一度見て、すみれちゃんの気持が変わったんだよ。
Ｃ３　：それもさ、コスモスを指さしていたんじゃない。
Ｃ２：それって、家族で育てているんだよ。
Ｃ１：そうそう、育てている。みんなで世話してるコスモスなんだよ。
Ｃ３：なんか、かりんちゃんみたい。
Ｃ：どうして？
Ｃ３：かりんちゃんは、今育っているわけ・・・・・。
Ｃ２　：そういえば「ちっちゃなかりんのおねえさん」ってあったね。だから、かりんの絵もかわいく見えたんだよ。
Ｃ１：かりんちゃんが、お花を描いたのもすごいよね。
Ｃ３：かりんが大きくなったら見せるかも。

授業の考察：（太文字は書き込みの活用）
ペアトークでは、コスモスの花に視点をあてながらかりんちゃんのしぐさにまで目を向けている。また、言葉を根拠にしながら、家族みんなで大事に育てているコスモスとかりんの成長を重ね合わせている。書き込みにあった「大切な思い出やかりんの成長、かりんが大きくなったらみせてあげる」などが効果的に生きている。自分の読みと他人の読みを交流する中で自分の考えを確かなものにしている。

③書く活動と交流との関係について
交流活動は段階的に形態を変えながら確実に話し合い活動を活性化していくようにした。その時、役だっているのがマイノートであった。課題解決に向けて「登場人物の気持ちを考え、自分の考えと比べる」の活動の基礎として全文視写や書き込みが有効であった。子どもたちは、マイノートで自分の考えを確認しながら話し合いを進めていた。

ア　ペアートーク
・自分と友だちの考えに同じところや違うところがあるか比べてみる。友だちの考えの

良いところは認めて知らせる。

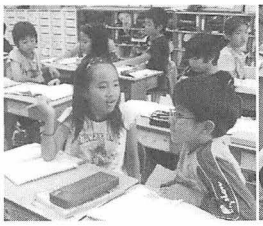
・友だちに質問したり、わかりやすく答えたりする。

イ　グループでの話し合い

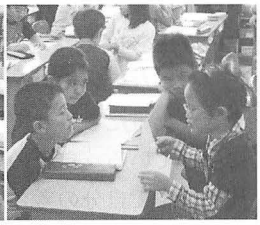
グループでの話し合い活動においては、４名で話し合っている。ペアートークと同じ要領で進めているが、生活グループでリーダーになる子が決まっている。今後は、どの子もリーダー役を務めることができるように司会者、記録者、話し合いの進め方など、手引き等をもとに、一人一人の力を高めていきたい。

ウ　全体での話し合い

ペアートークやグループでの話し合いは、ノートに記録するようにしている。全体の話し合いの場においては、それぞれのグループでの話し合いの発表の他に自分の考えに変容が出てきた子の発表も行っている。発表後、多様な考えを基に似ているところ違うところを整理し、自分はどの考えに近いのか、もう一度読みに戻ったり話し合ったりする中で明らかにしていく。そして、友だちの多様な考えや意見から学んだことや疑問等を振り返りカードに書く。



ペアトーク



グループでの話し合い

④書き込み指導と読みのテストの結果・分析から

ア　本学級で書き込みの段階的指導について

本学級では，書き込みの指導について下記の手順で行った。

・４月『ふきのとう』：音読の工夫についてグループで話し合い，教材文のコピーに音読記号や、読みの気持を書き込んだ。

・６月の『スイミー』：教材文のコピーに個人で書き込ませた。（書き込みの視点を提示。）

・９月の『お手紙』：11月の「わたしはおねえさん」マイノート（物語ノート）を作成し，教師も一緒に全文書写した。そして、今回もマイノート（物語ノート）を作成し，全文写本は勿論，題名読みや初発の感想などもマイノートに書き綴った。

◎書き込みの指導で感じたこと

書き込みは，書くことで物語のあらすじを捉え、主人公に対する疑問や表現の工夫など作品に対する内容理解いが高まるといえる。また，文字をマス目に正しく書くことや，表記の仕方等，教師も同じ活動をすることで，児童の戸惑いや書きの良さを実感することが出来る。

イ　単元テストの結果から

単元名	読むこと（全国平均）	言語事項（全国平均）
ふきのとう	92点（85点）	87.5点（84点）
スイミー	92点（85点）	90点（84点）
お手紙	100点（85点）	95点（84点）
わたしはおねえさん	100点（85点）	100点（85点）

これまでも読みのテストでは，全国平均を上回っていたが、言語事項は十分といえなかった。

しかし，全文視写や書き込みを行うことで，ことばに着目しその意味や使い方についても学ぶことが出来た。また、教材文を何度も読むことで文脈を正確に捉え，学習課題を解決する見通しを立てることが出来た。それは，ペアトークをする際に自分の考えを持つ事にも繋がり，学習へ積極的に参加することが出来た。つまり書くことで読みを確かなものとし，その読みを書きへと発展させる。このように２領域を関連させながら学習を進めることで，読解力が向上し，単元テストにも反映されている。（漢字等の取り立て指導をしなくても，言語事項にも反映している。）

実際に児童は，書き込みをすることで教材文を暗唱していた。また、単元テストの問題文を見て、的確に応答することができていた。

(3) 読解力・記述力の検証２

① 「わたしはおねえさん」を学んだ後の「感想文」

「感想文を書くためのポイント」

【書く前の材料集め】

①初発の感想・疑問に思ったこと、毎時間の振り返りを
　もう一度読み返す。

②読み返した後、自分の考えを書く。疑問への答えでも良い

③すみれちゃんに言ってあげたいこと。その他

【書く】

★①・②・③を基に学習した感想を書く。一ページを目標

感想文

わたしは「わたしはおねえさん」を読んで55ページの「半分くらいなきそうでした。もう半分はおこりそうでした。」のところがわたしの心の中からはなれません。

なぜかと言うと、わたしの友だちに二才か三才子がいて、わたしがべんきょうをすると、お水をかけたり、ノートをひっぱったりやぶいたりするのですみれちゃんと同じ気持ちになります。なので心の中からはなれないと思います。(おおしろ)

わたしは、「わたしはおねえさん」を読んで「じゃあ、かりん。「こんどはねえねがおべんきょうするから、ちょっとどいてね」というところが心にのこっています。

なぜかというと、すみれちゃんは、さいしょ、かりんちゃんを半分おこりたいきもちだったけど、このことばからすみれちゃんがかりんちゃんをおこらずにゆるしたということがとてもわかるのでこのことばがいちばん心にのこっています。(しんざと)

「わたしはおねえさん」をよんで心にのこった文は、「同じことをおかあさんに言われると、あまりいいきもちはしません。けれど、自分から思った時は、すごくいい気もちです」のところです。りゆうは、わたしもおかあさんに言われるといやな気もちいなるからです。何かにむちゅうになって、あまりべんきょうをやろうとしないところもすみれちゃんと同じ気もちです　(みやぎ)

【考察】　感想文から見えてきたこと

初発の感想では,、読んで面白いところについて書いていたが、学習後の感想では、主公と自分との共通点を見付けたり友だちや第三者との関連で自分自身を見つめたりしてる。また、すみれちゃんの成長を自分の成長に繋げようとする書きぶりがみられた。

②「２年生になって」の作文のポイントと実際の作文

「作文のポイント」

【形式】

①はじめ→結論から書く

②中→理由や、どういうことを書く
　詳しく例をあげて書く

③終わり→これからのこと

【内容】

いつ→一年生の頃と比べて

どこ→学校生活を中心に

誰に→家族に伝える（相手意識）

どんなことを→できるようになったことを書く

どう伝える→形式を使う・具体的に書く

作文１ できるようになったこと（K・S）

わたしが、二年生になってできるようになったことは、文を時間通り書くことです。

一年生の頃は、作文やせいかつかのやさいのかんさつの時間がたりなくて、休み時間にできていないところをぜんぶやっていました。二年生になっての作文は、時間どおりに書くことができるし、生かつかのやさいのかんさつは、時間どおりにできています。

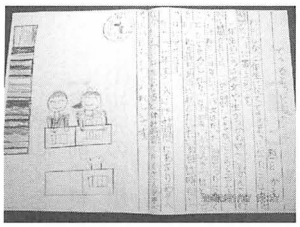
だから、一年生のころとちがって二年生になって休み時間にたくさんあそべるのでうれしいです。

作文１一年生の時よりかわったよ（H・Y）

わたしは、きゅうしょくのざんぱんがすくなくなりました。一年生の時よりたべるのも早くなりました。

もうひとつあります。それは、はっぴょうをいっぱいできるようになったことです。一年生の時は、みんなの前ではっぴょうするのははずかしくてなにもはっぴょうできなかったけど、今は、はっぴょうをいっぱいできるし、こうかいじゅぎょうでも３回はっぴょうできました。

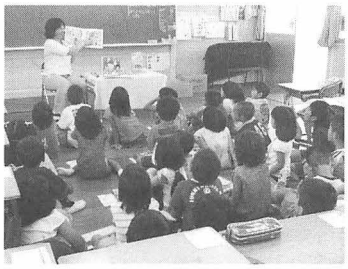
【考察】　作文から見えてきたこと



物語の読みの学習で学んだことを参考にすることで、相手意識、的意識が明確になり、「過去・現在・未来」と時系列で書けるようなった。上記の作文のように「時間通り書く活動が行える。」と作業時間を見通す力のついた子やペアトークなど話し合う活動を通し「意見がいえるようになった。」と自己の成長を作文に書いていた。「はじめ、中、終わり」にも気をつけながら書けるようになってきた。

(4)　実生活に生きてはたらく読みに繋げるための取り組み

①ブックトークで読書につなげる（複数教材・関連図書の紹介、同じ作者やテーマの作品の教材化）



この単元の最後にブックトークを行った。同じテーマの作品を紹介し、子ども達が自分の選択で本をよむことができるようにした。この活動は、学んだことが実際の生活に生きて働くことができるように意図的・計画的に取り組んだものである。

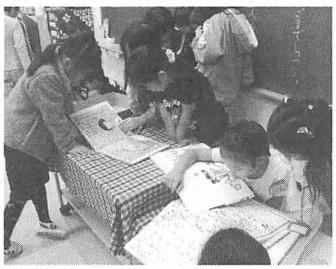
ブックトークを実施することによって、殆どの子が紹介した本を読むことができた。そして、読書ノートに自ら心に残ったことなどを記載していた。

【ブックトークで紹介した絵本等】

「ぼくをいじめるとねえちゃんくるぞ」	伊藤英治(編)　山本祐司（絵）
「たまごにいちゃん」	あきやまただし
「たまごねえちゃん」	〃
「がんばるたまごにいちゃん」	〃
「おとうとバーゲンします」	イム ジョンジャ（作）キムヨンス（絵）
「ぼく，仮面ライダーになる」	のぶみ（作）
すみれちゃんシリーズ	

② 学んだ事を生活の中に活かす日常的な取り組み：「読解力」と「記述力」を付ける場

ア「本はともだち」の定着化にむけた取り組（●書く活動　○読書活動など）



週に１回の図書室利用を教材と関連させ計画的に行う。

● 読書記録をとる習慣を身につけている。

○ 国語科の物語教材の関連として、作者やテーマに合わせた本を10冊程準備しブックトークを行う。(20分程度)

残りの20分は、左の写真のように友だちと読み合ったり、個人で読んだりする。子どもたちは思い思いの場所で自由に読書をしている。

○左の写真は、同じ本を読んだ仲間同士で自分の感想を伝え合っている場面である。

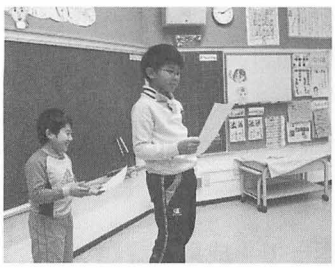
●それぞれの感想を交流した後に自分の心に残っていることや友だちから学んだことなどを読書記録に書くようにしている。

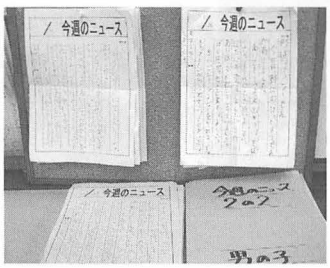
本を読んだ後、読みっぱなしにするのではなく、著書名や著者名だけでも必ず記録するように習慣づけている。

○ 子どもたちの読みを活かすため、生活科のお招き会で紙芝居を行っている。相手意識を持たせ、役割読みを活用している。

● 子どもたちは、読んだことを紙芝居にし、それを登場人物になりきって表現読みをすることで読書や表現することの喜びを感じているようである。

「本はともだち」は年間を通して行う活動である。





● 左の写真のように、毎日、帰りの会において、前日の日直が１分間スピーチを行うが、その時も自分の考えをしっかり書いてから発表するようにしている。

この活動では、書く、読む、聞く、話す活動が盛り込まれている。年間を通して行っている。

イ　教科の関連学習を取り入れて

・国語科と生活科を中心として取り組んでいることを紹介したい。
・まず、年度当初に年間指導計画を見直し、国語科と生活科を関連させた学習計画を立てた。
・合わせて学校図書館を活用した学習計画を立て、教科の学習とも連動させるようにした。

【生活科・国語科と図書館活用の計画の例】

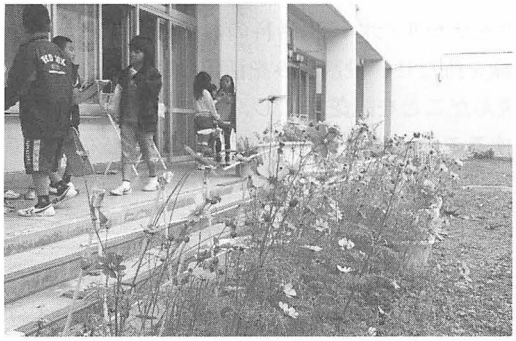
（例）　ジャガイモ栽培［生活］		図書館利用［国語］
・冬の野菜について考える。	→	図書で調べる。【読む】
・ジャガイモ栽培について考える		※読みのめあてを立てる。
	←	（どんな本で、何を調べるのか）メモを取る【書く】
・栽培計画【書く】を立てる。植え付け		
・栽培記録【書く】	←	観察日記を書こうの書き方参照

ウ　期待される取り組みの効果

上記に述べた「本は友だちの定着に向けて」「一分間スピーチ」「教科関連学習（国語科と生活科）」等は、年間指導計画を立てて、意図的・計画的・継続的に行っている活動である。読解力、記述力は日々の国語科の教科学習の他に、教科を関連させたり図書館と繋げたりすることで　学んだことが生活の中で生きて働く力になるものだと考える。

また、教科の学習以外の学級経営の中の取り組みとして年間を通して行う「一分間スピーチ」「紙芝居」「ブックトーク」「日記　指導」などは、子どもの読解力や記述力の向上はもとより、定着へと繋がり、子どもの意欲や継続しようとする態度を培うことが出来ると考えている。今後は、100文字作文など短作文の指導を帯び単元にして年間で取り組む予定である。

日々のこのようなささやかな取り組みを継続をすることによって、子どもに「読解力」と「記述力」を付け、全教科の学習を支える力に繋げていくことができると考えている。



写真は、子どもたちが主人公の大好きなコスモスを学級で育てている様子

5　実践を支える教材研究

(1)「書く活動」を重視した教材研究から

主な取り組み：子どもの活動を教師が先取りして行う

①教師自身が読む・書く活動を丁寧に行い、マイノートを作成する。

教師自身が子どもと同じ一人学びを教材研究の中で行う。アナログ的な面倒で時間のかかることを丁寧に行う。繰り返し音読を行い、全文視写、書き込みをすることで作者の息づかいに気づくだけでなく、自分の学級の子どもが躓きそうなところや指導したいことを明確にすることができる。また、教師自身が子どもと同じマイノートを作成することで児童のマイノート指導の徹底ができる。

教材研究の基本は、子どもに指導したいことや是非組織したい活動等を教師自身が先取りして行うことと、教材文を丁寧に読んだり書いたりすることだと考える。教師も子どもと同じく学ぶ仲間であり、子どもと共に授業創りをしていくことを大切にしていきたい。

②教師自身の「教材研究のあしあと」を一枚にまとめる：指導案作成の基礎資料作成

教材文と真摯に向き合い、教材文と自問自答する中で出てきた「児童に気づかせたい言葉、」「指導していきたい言葉」「様々な課題の根拠となる言葉」等を一枚にコンパクトにまとめる。それは、指導案作成の基礎的な貴重な資料となる。

この作業を通して、教材の特性、言葉を選択していくことの難しさ、作者の教材にかける意気込み、息づかいを肌で感じることができると思う。

「この教材でどのような学習をしくんでいくか」「自分の学級の子どもたちにどんな言葉の力を付けるのか」などを明確にする。また、発問や予想される課題を出し、教師の発問に対して子どもの思考の予測もしていきたい。

さらに、単元の指導計画を基に、指導と評価の一体化についても考える。

「教材研究のあしあと」は、14ページで紹介する。

7　実践を振り返って：成果と課題

(1)　子どもの姿から（成果と課題）

書く活動を基軸とした読みの学習を行う中で子どもたちに変容がみられるようになってきた。ここでは日々の子どもの姿を６つあげる。

①書くことへの抵抗が少なくなり、日々の生活の中でも書く活動が主体的に行われるようになってきた。最近では、発表の前には自分の考えを書いてから発表する習慣が身についてきた。

②書き込みをすることによって自分の感じたことや不思議に思ったことを素直に表現することができるようになった。

③「一人べんきょうのてびき」をもとに一人学びの時間に学び方を学んで共通課題の追究をしてきた。そのせいか殆どの子が自分の考えを述べることができるようになった。また、発表しなかった子でもノートに自分の考えの変容を記すようになってきた。

④共通課題の追究を経験を重ねることで学び合いの仕方がだんだんと身につくようになり、相手の意見をしっかり聞く力が育ってきた。そして、相手の考えと自分の考えの違いに気がつくようになっている。

⑤マイノートを作成することで自分の学びの足跡を振り返りそれを書く力に繋げることができるようになった。感想文や作文に学んだことや自分の気持ちを素直に表現し、教材文の書きぶりや内容等の転移等もみら

れるようになっている。

⑥単元が終わるごとにブックトークを位置付けたり発展学習等で図書館との関連を図ったりすることで「本はともだち」が定着するようになってきた。

以上が成果と言える子どもの姿である。子どもの姿から、書く活動によって読解力がつき、読む活動が記述力を推進するという相乗効果が生まれることが明確になってきた。

しかし、課題も残っている。書く力や読む力には、個人差が大きいことを感じている。教科の学習で学んだことを日常の生活に生かすための取り組みを継続したり、一時間一時間の授業づくりの中で書く活動をしっかり位置づけたりすることの重要性を痛感している。

また、全文視写や書き込みなどの一人学びは慣れるまでに時間を要するので、段階的に根気強く指導を継続していく必要がある。書き込みを日々の学習に活かし、書き込んだことを基に交流を行う中で学び合いの充実を図っていきたい。そのためにもマイノート作りが重要である。

(2) 教師自身の学びから

【成果】

①教材研究の段階で子どもたちに指導することを先取りして行うことで、子どもの思考の予測等がしやすくなり授業の中での子どもの躓き等の対応が容易になった。

②教材研究の足跡を一枚にコンパクトにまとめることにより、この教材の特色や教材文のキーワード等が一目瞭然で指導案作成や実際の授業等で有効に活用できた。

③物語の読みの全ての学習過程に書く活動を位置付けることで、読みの力が定着すると同時に書く力が身に付いていくことがわかった。子どもの作文や読みのテスト等の子どもの姿に結果が明確に表れている。

④マイノートを作成することによって、日々の学習の足跡や子どもの成長の様子がよく分かるようになり、マイノートを「指導と評価の一体化」に繋げることができた。

【課題】

①子どもに指導することを先取りして行うためには、教材研究に一定の時間を要する。教材研究のための時間を工夫して生み出して行かなければならない。細切れの時間を有効に活用していきたい。

②教材研究は、一人だけで行うよりも数人で行うことにより深まりが出てくる。教師自身の学び合い、磨き合いの場を定期的に設定することの重要性を感じている。

(3) 共同研究を終えて

①大学の教員と附属小の教員が互いに共同で実践研究をすることで、授業を客観的に分析・考察することができた。

②これまでは、指導書等を基にした授業づくりが中心であったが、協同研究で指導過程を工夫し、書くことを基軸とした読みの授業づくりの実践ができた。実践を通して有効性を検証することができた。今後も共同での事例研究を続けていきたい。

【参考文献】

1）文部科学省：「小学校学習指導要領」2008
2）宮地　裕他41名著：「こくご　２年下」光村図書出版株式会社　2010
3）吉永幸司著：「活用力をつける国語科授業の改善」　明治図書　2009
4）白石範孝編著：「３段階で読む新しい国語授業」文溪堂　2011
5）石井順治著：「子どもとともに読む授業」厚徳社　1988
6）琉球大学附属小学校：研究紀要29,2011

〈参考資料〉

教材研究のあしあと

「わたしはおねえさん」

いしいむつみ 作
くろい けん 絵

目標	◎登場人物の行動や場面の様子から想像を広げながら読み、自分の経験と結びつけて感想をもつことができる。 ◎今の自分と過去の自分を比べて、文章を書くことができる。	
	主な内容 ★おさえたい言葉・書き込みさせたい言葉	主な発問	指導上の留意点
起	○歌が好きなすみれちゃん ○二年生　妹（かりん）がいる ★おねえさん：繰り返し すみれちゃんの考えるお姉ちゃん像 「ちょっぴりえらくて　やさしくて　がんばるもので」 ★すごいでしょ	○「わたしはおねえさん」と「すみれちゃんはおねえさん」はどう違うのか ○「すごいでしょ」って何がすごいの？	・主人公の紹介 ・すみれちゃんの歌の暗唱 ・二年生になった喜びを自分と重ねる。
承1	○十月の日曜日 ★気持ちよく晴れた朝 ★お天気も　すみれちゃんの気持ちも ★りっぱなことをしたくなった 「えらいおねえさんは・・・・するんだわ」 教科書　ノートを広げました。	○すみれちゃんが、もっとぴかぴかにかがやくように思えたのはなぜ？ ○りっぱなことって何だろう。	・「も」の活用 すみれちゃんの独り言の表現「」 ・～のように
承2	○外が気になってきた ★コスモスがみんなで歌を歌っているようです ★歌っている　：くりかえし ★口から、しぜんんと ○にわに出て　水やり	○コスモスさんの歌を暗唱して歌ってみましょう。何が見えてきますか。 ○「口からしぜんと出る」からどんな事がわかる？	・「も」の活用 ・繰り返しの効果 ・コスモスへの思いを感じる
	新しい話題への転換 ★ちょっとしたことがおきて	○ちょっとしたこととはどんなことかな	・妹かりんちゃん登場
転	○すみれちゃんが水やりからもどってくると ○かりんちゃんがすみれのノートに絵を ★かいているさいちゅう ★「もう、かりんたら、もう」 ★半分ぐらいなきそう　もう半分おこりそう ★すみれちゃんには、自分がなきたいのか　おこりたいのかわかりませんでした ★じっと ノートを見ていました ★「何よ、これ。」 ★もういちど、ノートを見ました。 ★じっと。ずっと。	○「もう　かりんたら　もう」をどんなふうに読みますか。 ○どんな時になきそうでおこりそうになるの 顔はどんな顔　目は？ 口は？手は？　足は？ ○じっと。ずっと。からすみれちゃんのどんな声が聞こえてきますか。	・音読の仕方で気持ちを表現する 自分の経験を思い起こして読む ・表情や様子を動作化 ・接続語の指導 さて、まだ、それが、けれど、それから ・内言を書かせる
結	○すみれちゃんはわらいだしました ★「あはは」 ★かわいく見えてきたのです。 ★かりんちゃんも ★ふたりでたくさんわらってわらって、わらいおわると、 ★けしかけて、でも、けすのをやめて ★つぎのページをひらきました。	○すみれちゃんが「あはは」とわらったりぐちゃぐちゃの絵がかわいく見えたのはどうしてかな。 ○わらってが繰り返し遣われているのはどうして ○けすのをやめてつぎのページをひらいたすみれちゃんからどんな声が聞こえてきますか。	・繰り返しの効果 ・気持ちを問うのではなく内言を書かせる ・最後にすみれちゃんになりきって歌を書かせるのも良い。
一文で表すと ○二年生になってお姉ちゃん気分だったすみれちゃんが、妹の気持ちを考えてあげることでいちだんと成長した話			